

「地域住民を対象とした風水害の受止め等 に関するアンケート調査」結果概要

令和6年3月27日

気象庁

- 気象庁では、自治体支援の重要性に鑑み、平成30（2018）年度以降、市町村への平時からの支援の強化や、災害時のきめ細かい気象解説等に焦点を当て、各気象台における地域ごとの災害特性を踏まえた担当チーム「あなたの町の予報官」の編成、災害時におけるJETT（気象庁防災対応支援チーム）の自治体への派遣等、自治体の防災対応を支援する様々な施策を展開してきました。
- 国土交通省では、政策課題として重要なものなどを対象に、特定のテーマについて深く掘り下げて分析する「政策レビュー」を実施しており、**令和5年度は、「地域防災力強化を支援する気象防災業務」が国土交通省の政策レビューのテーマの一つに選定されました。**
- 政策レビューの実施にあたっては、実例を踏まえた評価を行う必要があるため、気象庁では、**近年風水害を経験した地域における住民の災害の受止めや、気象台及び地方公共団体に対するニーズ等を把握するため、令和4年台風第15号を経験した静岡市清水区の住民を対象に、アンケートを行いました。**
- 本アンケートは、気象庁が毎年行っている気象情報の利活用状況に関するアンケート調査の一環としても実施したものです。本アンケート結果及び令和5年度政策レビューの評価結果を踏まえ、気象庁では今後も地域防災支援業務の更なる充実と改善に努め、自治体と一体となり地域防災力の向上を推進していきます。
- 代表的な調査結果は、次頁以降の通りとなりますが、本調査結果の全体版は「調査結果全体」をご参照ください。

調査対象

- 静岡県静岡市清水区にお住まいの高校生以上の方（世帯の代表者）

実施期間

- 令和5年8月9日（水）～令和5年8月31日（木）

調査方法

- 日本郵便株式会社による「配達地域指定郵便」サービスにより、指定地域内の全戸に調査票を配布し、回答者に返送していただき、調査票を回収した。

回収率

- 34.3%（配布：3,796、有効回収数：1,303）

アンケート配布対象地域の選定

- 静岡市のうち、令和4年台風第15号の**大雨による被害が最も大きかった清水区**を選定。
（土砂や浸水による被害のうち約8割が清水区で発生）
- 清水区のうち、内水氾濫に加え、越水・溢水等の外水氾濫が発生し、**浸水の被害が顕著だった巴川の流域**の地区を選定。
- 巴川流域のうち、**支川である大沢川との合流点という、急激な外水氾濫のリスクを孕む地理的特性を有する地域**を選定。

アンケート配布対象地域付近の浸水の状況

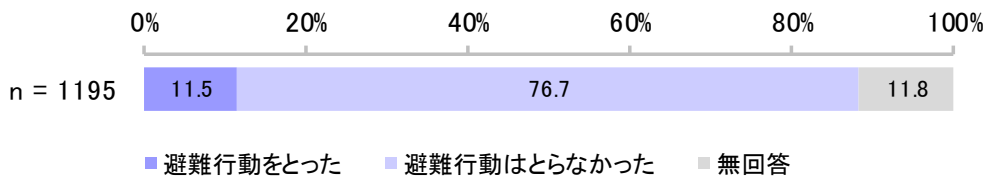
（静岡市「令和4年台風15号に関する浸水実績図」を一部加工して掲載）



住民の避難の状況

- 台風第15号により静岡市で大雨となった当時、静岡市内で過ごしていた1,195人のうち、**避難行動をとったのは1割程度**だった。
- 避難行動をとった住民の約8割は、いわゆる「屋内安全確保」を行っていた。

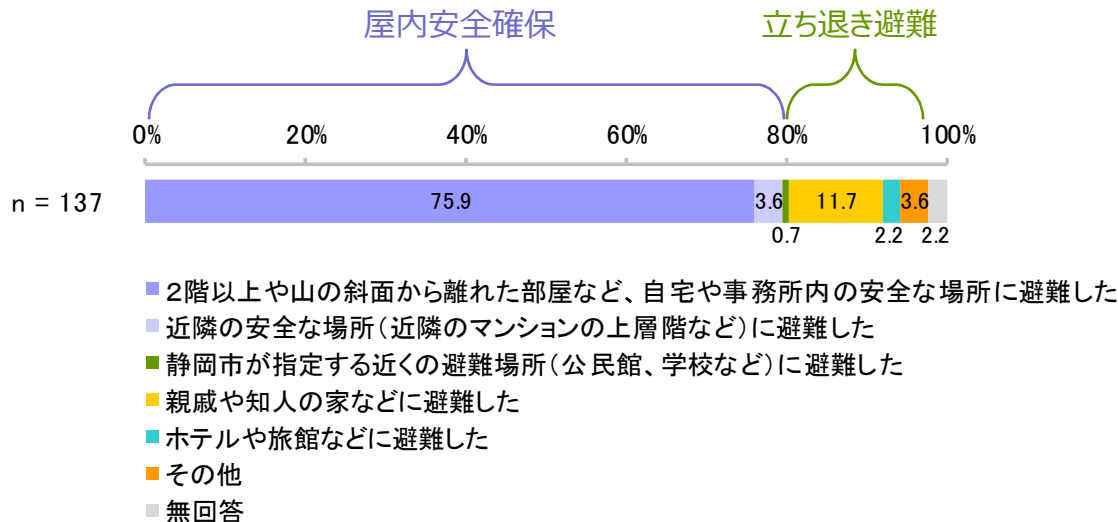
避難行動の有無



アンケート回答者の主な被災状況

自宅や事務所など人のいる場所が床下浸水した	16.2%
自宅や事務所など人のいる場所が床上浸水した	12.8%
自宅や事務所など人のいる場所に土砂が流れ込んできた	1.4%

避難行動の種別



【参考】屋内安全確保と立ち退き避難

● 屋内安全確保

災害リスクのある区域等に存する自宅・施設等であっても、ハザードマップ等で自ら自宅・施設等の浸水想定等を確認し、上階への移動や高層階に留まること（待避）等により、計画的に身の安全を確保すること。

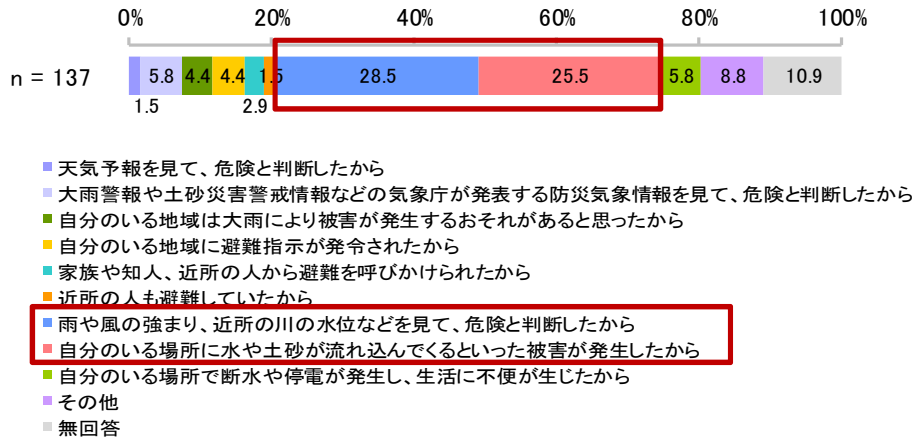
● 立ち退き避難

ハザードマップ等に掲載されている洪水浸水想定区域など災害リスクがあると考えられる地域の居住者等が、自宅・施設等においては命が脅かされるおそれがあることからその場を離れ、災害リスクのある区域等の外側等、対象とする災害に対し安全な場所に移動すること。

避難行動をとった理由／とらなかった理由

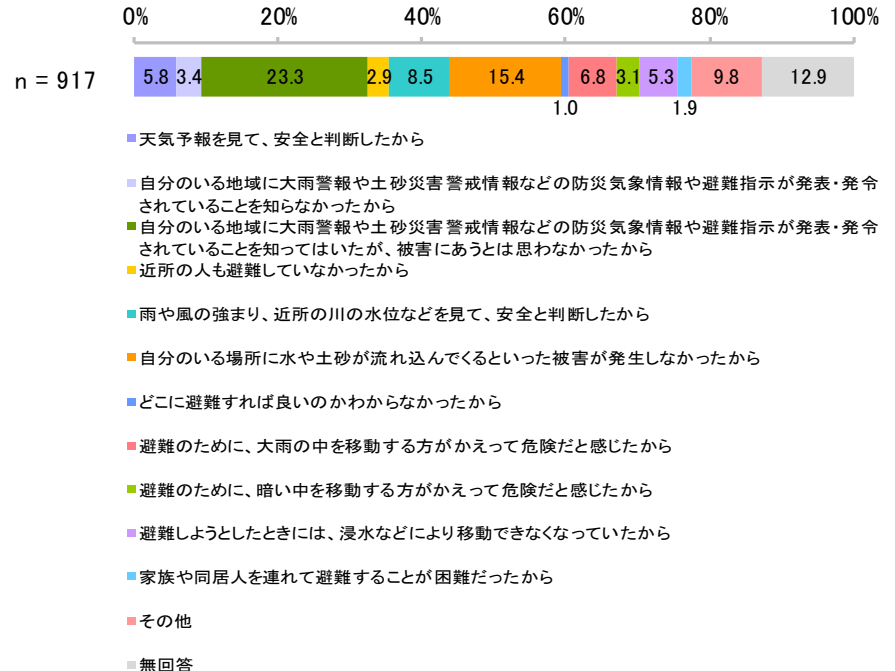
- 避難行動をとった住民の多くは、「**雨風**」や「**水位**」などの目の前の状況の変化をきっかけに**避難**したと回答している。
- 避難行動を取らなかった住民の多くは、「被害にあうとは思わなかったから」「被害が発生しなかったから」と回答している。
- いずれの場合も、**防災気象情報や避難情報という事前の「情報」よりも、眼前の「状況」を判断材料として重視する傾向**が見られた。

避難行動をとった理由



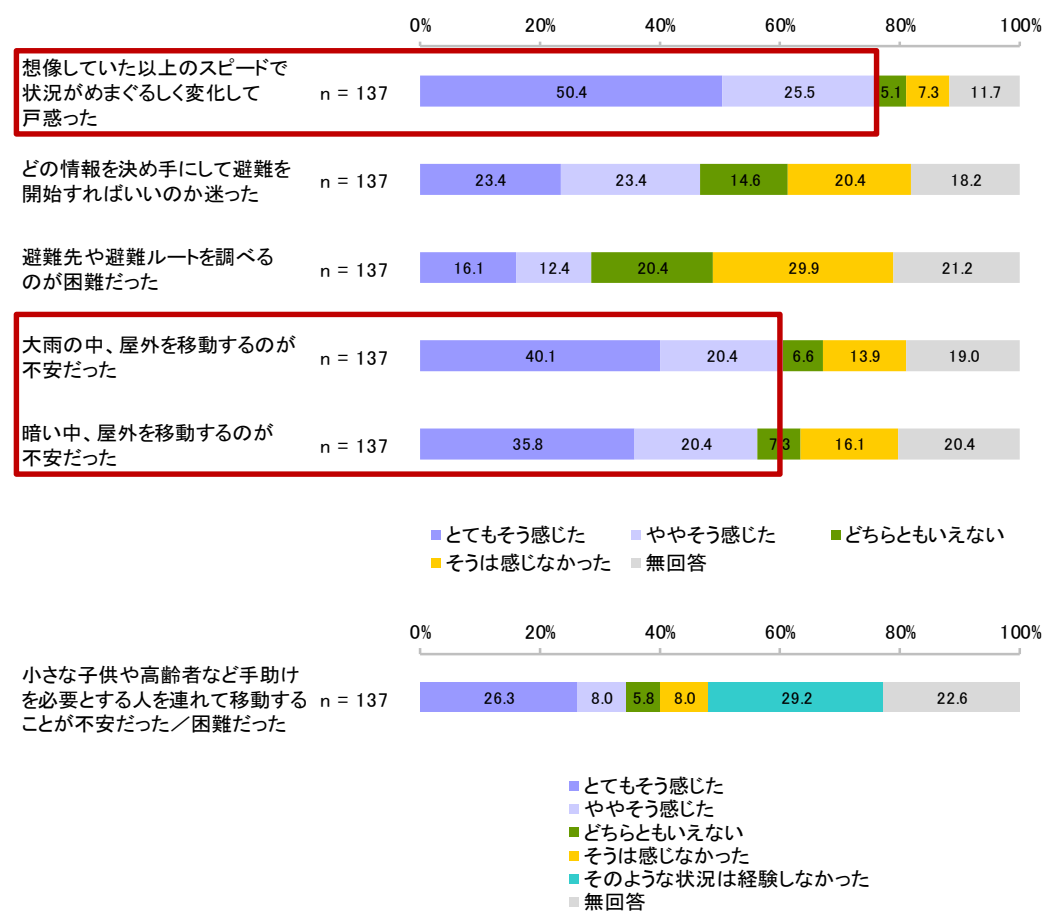
- 避難行動をとる／とらないという判断に最も影響を与えたものを一つ選択してもらった結果

避難行動をとらなかった理由



避難時の不安や困りごと

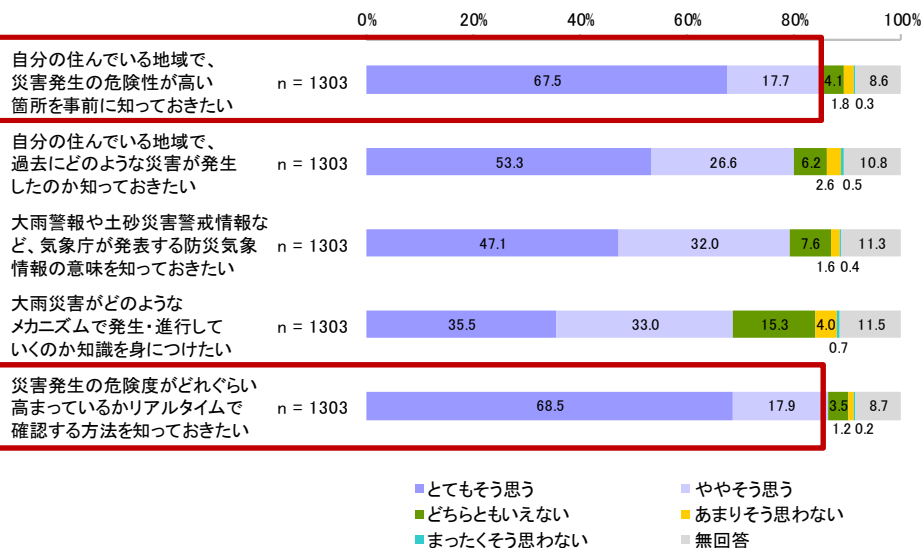
- 避難行動をとった住民が、避難の際に感じた不安として、最も多く挙げられたのは、**急激な状況の悪化に対する戸惑い**であった。
- 次いで、**大雨の中あるいは暗い中を立ち退き避難することへの不安**が多く挙げられた。



今後の大雨災害に備えたニーズと期待

- 住民が今後身につけたい知識としては、**地形の有する「危険性」や、時々刻々と変化する「危険度」を知る**ことへのニーズが高いことがうかがえる。
- 気象庁や自治体に期待する取組としては、**災害発生の「危険度」をリアルタイムで確認できるツールへの期待が最も高かった。**

大雨災害から命や財産を守るために 今後身につけたい知識



今後の大雨災害に備え 気象庁や自治体に期待する取組み

